

[成果情報名] 島原半島における春作バレイショのアブラムシによるジャガイモYウイルス (PVY) の感染時期

[要約] 島原半島における春作バレイショのアブラムシによるジャガイモYウイルス (PVY) の感染は、4月下旬から増加することが多い。

[キーワード] バレイショ、ジャガイモ、PVY、感染、アブラムシ

[担当] 総合農林試験場・愛野馬鈴薯支場・環境科

[代表連絡先] 電話0957-36-0043 電子メールogawa-te@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] いも類

[分類] 指導

---

### [背景・ねらい]

バレイショ栽培にとって重要な病害であるモザイク病や塊茎えそ病の病原であるPVYの圃場における感染時期ならびに媒介するアブラムシ類の発生活長を調べることは、その防除法を確立する上で重要である。島原半島におけるアブラムシ類の発生活長については井上・坂口(1986)によって調査が行われているが、ウイルスの感染時期についての調査は行われていない。そのため、バレイショ苗のトラップを利用したPVYの感染時期と黄色水盤を用いたアブラムシ類の飛来時期を調査する。

### [成果の内容・特徴]

1. バレイショ苗を用いたトラップを1週間毎に長崎県島原半島の北部(愛野町、図1)、南部(南串山町、図2)の圃場に設置し、1週間毎のPVY感染の有無を調査すると、PVYの感染は4月下旬から増加することが多い。

### [成果の活用面・留意点]

1. 本情報は、バレイショ生産者(特に種バレイショ生産者)へウイルス病防除方法を指導する際の基礎資料として利用できる。
2. 佐山ら(九州病害虫研究会報、2006)の報告では、収穫の2週間前の地上部の感染でも塊茎が感染することから、ウイルス感染のない種子用バレイショを生産するためには、PVYの感染が増加する4月下旬以降はできるだけ早く収穫する。

[具体的データ]

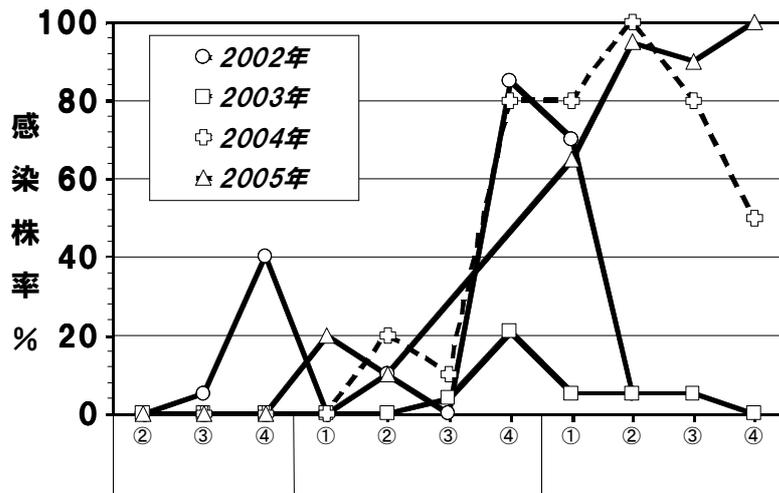


図1 バレイショ苗トラップの圃場におけるPVY感染株率  
(島原半島北部、愛野町)

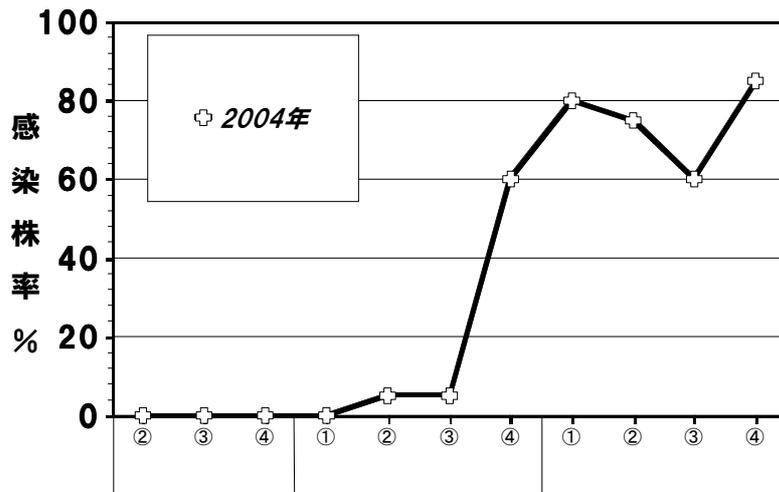


図2 バレイショ苗トラップの圃場におけるPVY感染株率  
(島原半島南部、南串山町)

[その他]

研究課題名：耕種の防除技術等を利用した昆虫伝搬性ウイルス制御技術の開発

予算区分：国庫（指定試験）

研究期間：2001～2005年度

研究担当者：佐山 充、小川哲治、迎田幸博